

〈全高書研参加報告〉

第四十九回全日本高等学校書道教育研究会【事務局開催】 川崎特別大会参加報告 ～今大会の趣旨を～

八幡工業高校 坂本 順司

令和六年八月八日(木)・九日(金)、神奈川県川崎市の川崎市スポーツ・文化総合センター(カルッツかわさき)で標記の大会が開催された。この数年、本県高等学校書道教育研究部会事務局長として参加させていただいており、今年度も貴重な経験をさせて頂いた。紙幅をお借りして、ここに今大会の趣旨を記録しておこう。

この大会のテーマは『高等学校芸術科書道とは』～高等学校教育の中における書道教育の役割を改めて考える～というもので、平成三十年三月に改定・告示された現行の高等学校学習指導要領実施の完成年度を迎えた今年度、その着実な実施に向けて、教育現場の実施状況を全国で共有し、今後の課題を協議することを主題として、事務局を置く神奈川県で開催された。

さて、この「事務局開催」とは何か、おそらく、今この報告文を読んでいただいている本県高等学校書道教育研究部会会員等の先生方が、はじめに疑問を感じられるところではないかと思うことから、ここでは、『第四十九回全日本高等学校書道教育研究会【事務局開催】川崎特別大会研究収録』の「挨拶」より、はじめに、全日本高等学校書道教育研究会会長の木村則夫先生(神奈川県立相模原高等学校副校長)のお言葉(題「高等学校教育の中における書道教育の役割を改めて考える」)を引用させていただきます。

本大会は、「特別大会」とありますように、本部事務局が開催し、これからの持続可能な全国大会のあり方を考えていくための工夫を取り入れた大会です。夏季休業中の開催、クラウドを活用した資料の提示、チャレンジ分科会の設置、書道を学ぶ大学生等の参加、また運営費用の削減と準備の効率化等、多くの工夫を取り入れております。今後の全国大会運営改善に向けて、全国大会のあり方についてもご論議頂ければと思っております。(P.21.24～28)

次に、今大会会長の荒井利之先生(前会長、前川崎市立川崎総合科学高等学校校長、現川崎市立高津高等学校教諭)のお言葉(題「書道教育の役割は何か」)を引用させていただきます。

さて、令和四年度から年次進行で実施された高等学校学習指導要領では、指導方法や指導体制の工夫改善により「指導と評価の一体化」「ICTの効果的な活用」等を通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実から生徒の主体的・対話的で深い学びに繋がっていくことが求められています。この川崎特別大会は、この趣旨に基づき令和六年度より全学年実施となった高等学校教育の中で書道教育の役割を改めて見つめ直すことをコンセプトとしました。(P.21.3～7)

以上の大会趣旨から分かるように、今大会は全高書研にとつての大きな変革の大会であり、従来のスタイルの長所を受け継ぎながら、これからの時代に持続可能な新たなモデルをお示しいただく大会であった。尚、今大会の授業実践等の資料は下掲QRコードより閲覧できる。

